

小学校 全 学年<全一（3）>

学 年	1 ～ 6 年	時 間	学校行事 火災発生の避難訓練と脱出見学・体験	時 期	5 月	時 数	1 時間 (45分～60分)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災発生に対して、全児童が適切な指示に従い、敏速に統制のある行動をとり、安全に避難することができるようにする。 ・ 逃げ遅れた場合の脱出方法を見学・体験することにより、火の怖さを知るとともに安心して指示に従い安全に避難することができるようにする。 						
資料・準備	はしご車、脱出シューター（消防署で準備）						

展開

- 1 非常ベル（火災報知設備）と校内放送による児童の避難（身近な避難経路を經由し避難場所へ避難）
 - ・ 避難経路の確認（防火扉・シャッターを閉める）
 - （・ 通報訓練・・・職員室在勤者）
 - （・ 通行障害想定→ 迂回路で避難）
 - ・ 負傷者や逃げ遅れ者想定
 - ・ 鼻・口の保護（煙・有毒ガス）
 - ・ 放送設備またはハンドマイクの活用
 - ・ 「お・は・し・も」の約束の徹底
- 2 避難後、児童数及び児童の様子を確認→ 全体の掌握
- 3 避難総括
 - ・ 校長、安全担当の話
- 4 安全な避難の実際
 - ・ 協力団体（消防署）に依頼
 - ・ 学校設備の避難はしご等を使つての避難を体験、児童は見学
 - ・ 協力団体持参のはしご車や脱出シューターによる避難体験と見学
- 5 全体総括と今後の心得
 - ・ 消防署員の話



脱出シューター入り口



脱出シューター出口

【工夫例】

- ☆地域と連携→ 地域への学校開放日の1時間に設定し、校区住民に広める。
- ☆保護者(P T A組織)と連携→ 参観日の1時間に設定し、親子で実施し、家庭啓発とする。
その後、3年～6年は教科学習、1、2年は短学活で事後指導を行う。

関 連 する 教科・領域等	(学校行事) 避難訓練
協 力 団 体	東部・中部・西部各広域消防局、各地域担当消防署